

太陽誘電株式会社
2024 年3月期決算説明会 質疑応答要旨
(2024 年5月8日開催)

※前期…2024 年3月期

今期…2025 年3月期

- Q1. 今期の MLCC について、前期比での売上高伸び率が約 16%という計画だがその背景は。また、稼働率の前提は。
- A1. 今期は自動車向けに加えて情報機器、AI 関連の情報インフラ・産業機器向けが大きく伸びると見ている。前期は情報機器や情報インフラ・産業機器市場で調整が発生していたが、今期はその反動があると思っている。当社は大型、高信頼性商品の生産能力を増強しており、それが売上の増加につながると考えている。
- 前期第4四半期の MLCC の稼働率は 70-75%で、今期第1四半期は 80%前後を前提としている。第2四半期以降は売上の増加に伴ってさらに稼働率を上げていく。
- Q2. 前期に対する今期の営業利益増減要因のうち、販売価格影響、操業度効果、固定費について説明してほしい。
- A2. 今期の値下がりペースは前期並みと、比較的慎重な前提を置いている。操業度効果は売上の増加に加えて、在庫増やミックス改善の影響もあり、大きな増益要因となる。在庫は、前期は 80 億円削減したのに対して、今期は 100 億円程度増やす計画である(注1)。また、情報機器、情報インフラ・産業機器向けの需要増加によるミックス改善が想定される。固定費は、減価償却費や研究開発費の他、稼働率の上昇に伴い労務費や電力費などが増えることから、180 億円の増加を見込んでいる。
- Q3. 第1四半期の MLCC の売上高が前四半期比横ばいである一方、通期では前期比約 16%増を見込んでいる。第2四半期以降に大きな伸長を見込む背景は。また、インダクタの売上高は前年比微増の計画となっているが、MLCC と比べて成長率が低い理由は。
- A3. MLCC の売上高は、第1四半期は前四半期比で情報機器、情報インフラ・産業機器向けが増加、民生機器、通信機器、自動車向けが減少と想定している。第2四半期以降は需要期を迎える北米スマートフォン向けに加え、情報機器、情報インフラ・産業機器向けの増加を織り込んでいる。xEV 化や AI などの技術進化の恩恵もあり、通期では自動車、情報機器、情報インフラ・産業機器向けが前期から拡大する見込み。
- インダクタは MLCC ほど用途分野が広くないため、見通しが異なる。インダクタは市場を拡大している段階であり、自動車や情報インフラ・産業機器市場への拡販に向けて取り組んでいる。

- Q4. 前期まで需要が減速していた情報機器や情報インフラ・産業機器向けの増加を想定しているが、これは現在の受注状況などを踏まえた見通しなのか。
- A4. 情報インフラ・産業機器向けでは、当社が従来予想していた以上に AI 関係が増えると見ている。AI サーバーにおける員数増や大容量化がある中で、市場の動きも考慮して計画を策定した。
- Q5. 2023 年 10 月に転換社債を発行したが、借入ではなく転換社債を選択した背景と、転換価格を 10%に設定した理由は。また、将来的な貸借対照表のあるべき姿をどのように考えているか。
- A5. 営業活動によるキャッシュインが中期経営計画に対して不足していたため、資金を調達する必要があった。競合他社の財務体質と当社の財務体質が大きく乖離すれば顧客の当社に対する評価にも影響が及ぶことから、その点も意識して調達方法を選択した。転換価格は、調達する資金の規模を考慮して設定した。
- 貸借対照表については、当社の商品を強化して中期経営計画の目標を達成し、時間がかかるかもしれないが、計画策定時に想定していたキャピタル・アロケーションの姿を実現したい。
- Q6. 今期の上期と下期の売上高および営業利益の配分は。
- A6. 売上高も営業利益も上期より下期の方が比重は大きくなると想定している。
- Q7. 前期の減益要因となっている販売価格影響だが、これはほとんど MLCC の値下がり影響なのか。製品別や用途分野別で価格動向に違いはあるのか。
- A7. MLCC の影響が大きい。通信機器向けなどは四半期での価格改定が多いため変動しやすいが、それと比較すると自動車や情報インフラ・産業機器向けは価格がより安定している。
- Q8. 前期第4四半期の営業利益は2月時点の計画を約 10 億円下回ったが、どのような変化があったのか。
- A8. 第4四半期の営業利益が計画未達となった要因は、操業度効果の低下と固定費の増加。50 億円の在庫増を計画していたものの、通信デバイスの中国市場向けの需要減速に伴って稼働を抑制したこと、また、インダクタやアルミニウム電解コンデンサは売上が想定を上回ったことから在庫増は 25 億円に留まり、操業度効果が計画を下回った。さらに、研究開発費などが増えたことで固定費が計画比で3億円増加した。

Q9. AI パソコンや AI スマートフォンについて、今期と来期の業績への寄与に対する期待感は。
A9. 今期は AI パソコンや AI スマートフォンによる大きな寄与はまだないと考えているが、来期にかけては貢献を期待している。一方、AI サーバーは前期から少しずつ伸びているので、今期下期から業績に寄与すると見ている。

Q10. AI サーバーでは MLCC の員数がどのように変化するのか。

A10. AI サーバーの構成によってかなり差があるので一概には言えない。MLCC の員数が従来のサーバーの倍になるという見込みもあるが、将来的にはそれ以上に増える可能性もある。

Q11. EV の需要拡大が減速して内燃車からのシフトが停滞しているという話もあるが、その場合の太陽誘電への影響は。

A11. EV ではなくともハイブリッド車へのシフトは進むと考えており、大きな影響はないだろう。また、ADAS やセーフティー用途でも MLCC の員数増は続くため、自動車市場の需要拡大に大きなマイナスの変化はない。

注1:増減額は、為替や利益に影響がない部分を除いた実態ベース

※当資料に記載されている、当社(太陽誘電株式会社、および当社グループ)に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。